



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第23号

発行者・会長 長吉 泉
編集者・委員長 神田 清
発行所・関東同窓会事務局
〒248-0025 神奈川県鎌倉市
七里ガ浜東 2-37-6
電話 0467-31-5715
FAX 0467-31-5715

印刷・佐伯印刷(株)

幹事会報告

平成十三年度 関東同窓会総会開催等 今年度運営方針を協議

幹事長・用正 靖彦(昭30年卒)

●秋の幹事会議事報告等

昨秋十一月十六日に役員及び学年幹事31名の出席を得て開催された秋の定例幹事会を中心に活動状況を報告します。

冒頭、長吉会長より昨年の総会、懇親会が極めて盛大裡に終了したことに対する当番幹事さんへの慰労の言葉があり、続いて個別議事に移りました。

(一)維持会員の状況について

平成十二年十月一日現在、維持会員数三九四名(口数四五〇)で前年同時期に比して十二名(八口)の増加、これは当番学年幹事の34年卒、44年卒の皆さんの多数の加入があったことに

よるものです。

「又維持会費の滞納状況は十一月一日現在一〇二名(金額で八万円)で前年に比して若干の改善となっております。

ご承知のことと存じますが、総会・懇親会時の会費は当日の会場費・宴会費に充当され、広報誌「臥牛」の発行、名簿の作成、総会時のイベント、幹事会開催等に係る費用や通信費は維持会費で賄われています。従って維持会費が同窓会運営の基盤となつていふ言つても過言ではないと思ひます。」

どうぞ維持会費制度をご理解頂き、維持会員の増加拡充と維持会費の未納の撲滅を切にお願い致します。



定例幹事会ご出席の役員及び各学年幹事(31名)
(12.11.16)

(二)総会・懇親会について

「第十五回総会・懇親会は35年卒・45年卒の当番学年の皆さんが幹事となって、来る七月十四日(土)小田急ホテルセンチュリーハイアット(新宿)での開催に向けて着々と準備を進めていきます。」一人でも多くの方々が出席され、楽しい一日を過ぎて頂き度く、心からお待ち致します。

(三)各委員会からの報告

一、広報誌「臥牛」の発行は諸般の事情から、ページ数を増やし、平成十三年以降年一回五月とする事になりました。クラス会・同期会便り、ふるさと情報、文芸・詩歌等皆さんからの投稿をお待ち致しています。

又ホームページの開設は「臥牛」22号でお知らせ致しました

が、今後は内容の充実を図っていきますのでご利用下さい。

(広報)

二、組織の基盤作りに重要な位置を占めています学年幹事が未だ選任されていない学年があります。是非とも学年毎に正、副幹事(男女一名)を本人の了解を得て選任頂き、幹事会への欠席学年を減少し、会の運営に積極的に参画をお願いします。(組織)

長吉会長

明治大学理事長就任 祝賀会が盛大に行われる

日時 3月28日(水)
午後6時開宴
場所 椿山荘(文京区)
副会長 佐藤 映之昭28年卒



長吉会長

当同窓会、長吉会長がこのたび母校の学校法人明治大学の理事長に就任された。就任祝賀会が、●在京大分県人会有志の会、●在京大分駿台会(明大OB会)、●両豊俱樂部(大分県出身者の会)、●関東竹田会、●竹田高校同窓会、●竹田高校二六会の主催で標記の通り百五十余名が出席、盛大に催された。定刻、アナウンサー志生野温夫氏(26年卒)の司会で先ず駿台会の植木邦人氏の開会のことば、続いて発起人を代表し

て元県人会長・川野巧氏が長吉氏の就任早々学園紛争に果敢に立ち向い対処された勇気を称え、県人会長の佐藤文夫氏は大分県より日本の教育界に多くの逸材を輩出、今回更に長吉氏が加わり我が大分県の誇り、と賛辞を呈し、大分県平松知事の祝辞を県東京事務所所長・財津氏が代読。郷里からは山中緒方町長が町の歴史と環境をからませでの祝辞。母校同窓会会長・田比和義先生は長吉会長の少年期に触れ友人が多く、知識と行動力が卓抜であった、今後は健康に留意され重責を果たすよう激励。多くの祝辞と激励の言葉を戴いたのち長吉氏より身に余るお祝辞、激励の言葉を頂戴、厚く御礼を申し上げますと答礼。続いて花束贈呈後、両豊俱樂部の中江氏の音頭で乾杯。宴は終始和やかな中、阿南一成参議はじめ郷里出身の国会議員の先生方のスピーチ、又同級生竹田会会長・里見菊雄氏が「長吉流の麻

●第四回
竹田・東京懇談会
開催される

日時：平成12年11月17日(金)
午後3時～5時
場所：日本パーカラライジング(株)
2F会議室

平成12年度の竹田会総会の前
に竹田からの来賓を交えて、竹
田会と竹高・関東同窓会の役員
が集い、懇談を行った。出席は、
竹田からの来賓として高橋助
役、古井議長、姫野会頭、菅親
光協会長、後藤商店連合会副理
事長、板井商店連合会副理事長、
竹田会の役員(里見会長、山口
副会長、石原副会長以下6名)、
関東同窓会の役員(粟生利信氏、
伊藤七五三氏、以下5名)の
合計22名が集い、主に竹田の近
況報告について懇談を行った。
平成13年オープンを目指して
進めている温泉開発事業の経過
報告、開通が待ち望まれている
中九州横断・地域高規格道路、
竹田市の再生をかけて観光新興
計画について調査・提言を行う
専門員(中桐氏)を採用、市内
の空き店舗対策事業として明治
10年頃の荒物家を復元(むらさ
き草をオープン)等々について、
地元関係者の方々のご苦勞を含
め報告があった。

※「雀戦法」をご披露、会場の笑いを誘い、最後は柳亭市馬師匠(同窓)が即席で「長吉泉」を折り込んだ相撲甚句を唄い、密度の濃い祝賀会を終了した。



第4回 竹田・東京懇談会 (12.11.17) 於 日本パーカラライジング(株)

●維持会費のご負担のお礼とお願い

*関東同窓会は、ご承知のとおり、維持会員の皆様の日頃からの、深いご理解とご協力に支えられて、同窓会の運営が安定的なあゆみが続いております。
*未済となっております方には、何かと出費ご多端の折かとも思いますが、ご負担についてのご協力方よろしくお願い申し上げます。

●平成12年度年会費納入者芳名簿

(平成12・4・1～13・3・31)「総務委員会」
お名前もれがありましたら、同窓会事務局までご連絡下さい。
TEL 0467(31)5715 FAX 0467(31)5715

「旧制中学の部」

- 昭和4年度 中川清次
- 昭和5年度 加藤郷一
- 昭和6年度 山口 立
- 昭和8年度 高宮 昇
- 昭和10年度 吉田 忠、渡辺正治
- 昭和11年度 田部 健、武藤省三
- 昭和13年度 小倉幸雄
- 昭和14年度 後藤次士
- 昭和15年度 荒牧 治、須藤勲一、小野昌宏
- 昭和17年度 高山英一
- 昭和19年度 服部舜次
- 昭和20年度 阿部正之、足立五郎、伊藤七五三、堀 健一、渡辺龍雄、高畑憲蔵、大塚達夫、伊東健二、吉良禮三、得丸大典、留高照幸、那須隆澄、前田 健、清水典彦、粟生利信、家原和雄、池内勇吉、近藤秋男、布施泰義、和田真琴、渡邊真一、佐藤浩一

「新制高校の部」

- 昭和9年度 宮田幸子、野口初子
- 昭和10年度 阿南幸子、内山俱子
- 昭和11年度 大津ムツ
- 昭和13年度 飛田芳子
- 昭和14年度 石井シズエ、倉田敏子、三代照子
- 昭和15年度 石原田鶴子、小倉セツ
- 昭和16年度 植山素子
- 昭和17年度 広瀬尊子
- 昭和19年度 脇本安子
- 昭和20年度 中島正子
- 昭和21年度 寺田タツ
- 昭和23年度 得丸サヨ、村上福子、梶井和子 (稲葉幸一石原代表)

- 昭和26年度 阿南惟正、飯倉一郎、伊藤瑛介、今永博彬、牛島健一、大崎員雄、神田 清、吉良欣一、工藤勘吾、里見菊雄、志生野温夫、高松良雄
- 昭和27年度 高松梯子、長吉 泉、浜田高盛、浜口鈴子、測野 修、別府正克、後藤郁子、安藤 哲、大坪孝子、吉野昭重、重田英子、高山茂美、阿南淑子、甲斐智津子、金子一也、上村マサ子、高須敏士、毛利 宰、得丸正哉、津田美枝、米田澄子、後藤利治、江崎和彦、巖島資裕、河野元義、坂本 勇、佐藤映之、中村シゲ子、堀利 巨、益永三生、古謝正祐、佐藤源治、堀 博、麻生 巖、佐藤毅士、西美智子、秋吉政夫、瓦林義紹、工藤敏暢、小坂佛三、下川正見、田北元良、林 盛生、平本照磨、深田登子、森 淳一、八木国晴、山口雄三、久保博紀、得丸郁子、山田百子、秋元幹夫、小代 孝、松岡靖雄、堀光 宏、鈴木昌子、松澤立雄、後藤忠臣、阿南忠義、大塚隆右、川合文彦、佐藤清八、西 誠、馬場計輔、室 慎一、盛 哲男、用正靖彦、西山尚子、森 勝幸、足立良一、真田はつみ、丸山郁代、佐藤輝男、新開和子、河野 充、斉藤昭義、堀光貞枝、赤山勉也、巖 室雲、渡瀬 宏、平田豊年
- 昭和31年度 上田武男、内田 豪、河野智治、佐藤順之助、河野昭夫、生野 勝、渡部祥子、田爪善三

郷土の誇り・博物学者
「中川久知展」開かる

安東 和彦(昭25年卒)

昨年十一月の本紙「お知らせ欄」で紹介されたこの展覧会は、竹田市教育委員会の主催で、十二月二日から年末まで竹田市立歴史資料館の市民ギャラリー・水琴館で開催された。

会場入口正面には、野口且夫氏提供の中川久知の肖像写真が飾られ、中は壁面一杯に業績資料などがパネル展示されている。

壁際に並んだ展示ケースの中には、御遺族から拝借した遺品や写真、久知の著作や文献類、それに久知が命名したコノマチヨウなどの昆虫標本(大分昆虫同好会提供)と、久知の提唱した稲のズイムシの駆除方法「葉鞘変色茎の切取り」作業のために考案発売された、細長い「変色茎切取鎌」(伊勢市の神宮農業館、小平市の日本植物防疫協会資料館より借用、今では殆ど残って



御遺族の方々、東京・名古屋・熊本から

いない)などが展示されている。私は三日の午後講演を依頼された。平尾館長さんのアイデアで、展示会場の中仕切りを一時取払って椅子を六十ほど並べた、展示物に囲まれた新鮮な雰囲気の間である。二十五年会の級友が十数名、大分や三重町からも駆けつけてくれ、東京でもよくお会いする古井市会議長さんも来て下さった。

御遺族の方々も東京、名古屋、熊本からわざわざ来竹された。中でも久知の末娘で御高齡の富田モトさんが熊本から来られ、質問も入ると二時間もの長い

間、最前列で熱心に聴いて下さったのには大変感激した。最後には市教育委員会の普教育長さんから、温かい励ましの言葉を頂き、夜は二十五年会有志の御好意で大いに歓談、竹田の方々の温かい人情に包まれた忘れられない一日であった。これまでに歴史資料館や竹高同窓会の多くの方々に大変お世話になった。心から御礼申し上げますとともに、これを契機に、篤学の自然科学者中川久知が、郷土の偉人の一人として、永く皆さんの心に生きることが切望して止まない。

「荒城の月」を

永遠に歌い継ごう

「荒城の月」誕生100年記念式典
並びに合唱の祭典



市内合唱団が姉妹都市、友好都市合唱団と廉太郎の曲を競演

瀧廉太郎が名曲「荒城の月」を作曲して100年を迎えるのを記念して、「荒城の月」誕生100年記念式典並びに合唱の祭典が2月25日、竹田文化会館で行なわれました。式典では独自教材として制作された「音楽物語『瀧廉太郎』」の初上演。つづいて合唱の祭典では、「白秋をうたうコーラス蘭の会」と「ヴォーチェ・のべおか」を迎え、市内合唱団と「荒城の月」を合唱しました。



↑音楽物語「瀧廉太郎」の初演

昭和39年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和38年度 梶原克之、古川勝俊、	昭和37年度 緒方信義、熊谷克直、	昭和36年度 田北則夫、木内千草、	昭和35年度 阿南博利、兼島政宣、	昭和34年度 朝見隆子、兼島政宣、	昭和33年度 徳丸和子、兼島政宣、	昭和32年度 白杵鞆彦、兼島政宣、	昭和31年度 徳丸和子、兼島政宣、	昭和30年度 朝見隆子、兼島政宣、	昭和29年度 阿南博利、兼島政宣、	昭和28年度 緒方信義、熊谷克直、	昭和27年度 田北則夫、古川勝俊、	昭和26年度 梶原克之、堀 友朗、	昭和25年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和24年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和23年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和22年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和21年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和20年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和19年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和18年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和17年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和16年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和15年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和14年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和13年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和12年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和11年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和10年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和9年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和8年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和7年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和6年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和5年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和4年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和3年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和2年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和1年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和0年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和32年度 高橋房枝、阿南一成、	昭和31年度 阿南 暉、小代邦弘、	昭和30年度 生野良友、高橋 誠、	昭和29年度 辻 享、利根範子、	昭和28年度 藤原保範、佐藤光子、	昭和27年度 三浦弘子、中野友幸、	昭和26年度 小代好枝、松良邦夫、	昭和25年度 大崎敏夫、大岩 泰、	昭和24年度 山口靖之、	昭和23年度 板井洋一郎、本田孝和、	昭和22年度 佐藤紘二郎、古庄醇二、	昭和21年度 塔屋恵美子、牧 壮亮、	昭和20年度 立川美知、加藤興史、	昭和19年度 斉藤雅代、長田美貴子、	昭和18年度 佐藤朝生、森河 清、	昭和17年度 福田昭光、海野厚子、	昭和16年度 片山典子、志賀静江、	昭和15年度 片山 研、小代基秀、	昭和14年度 上野好生、	昭和13年度 後藤大林、後藤恒嘉、	昭和12年度 武内英則、服部恭一、	昭和11年度 吉崎祥子、齊藤英昭、	昭和10年度 羽田芳郎、水野紀代子、	昭和9年度 山本榮子、桑山玖美子、	昭和8年度 阿南洋子、津下渥子、	昭和7年度 和田 剛、松本紘正、	昭和6年度 柳井昭子、成安富吉、	昭和5年度 大津琴江、菅紀代巳、	昭和4年度 松岡宏和、松良修二、	昭和3年度 小澤康三、	昭和2年度 津田紀子、麻生三郎、	昭和1年度 大塚恵士、続幸二郎、	昭和0年度 兼島政治、加治久繼、	昭和39年度 小代文喜、副田健治、	昭和38年度 松本雅愛、木村正毅、	昭和37年度 田北喜代子、平井和子、	昭和36年度 大岡房子、萩原 忠、	昭和35年度 白杵鞆彦、兼島政宣、	昭和34年度 徳丸和子、兼島政宣、	昭和33年度 朝見隆子、兼島政宣、	昭和32年度 阿南博利、兼島政宣、	昭和31年度 緒方信義、熊谷克直、	昭和30年度 田北則夫、古川勝俊、	昭和29年度 梶原克之、堀 友朗、	昭和28年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和27年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和26年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和25年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和24年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和23年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和22年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和21年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和20年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和19年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和18年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和17年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和16年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和15年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和14年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和13年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和12年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和11年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和10年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和9年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和8年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和7年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和6年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和5年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和4年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和3年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和2年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和1年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和0年度 後藤 宏、堀 友朗、	昭和32年度 吉岡龍雄	昭和31年度 羽立圭爾、堀田 大、	昭和30年度 藤田和安、池田重和、	昭和29年度 首藤利幸、伊藤大義、	昭和28年度 近藤悦子、	昭和27年度 阿南裕康、河野精一、	昭和26年度 後藤猛士、後藤彰二、	昭和25年度 阿部英介、都 文生、	昭和24年度 衛藤晶平、川口和夫、	昭和23年度 中神章彦、池田典幸、	昭和22年度 栗田信子、	昭和21年度 桑島輝茂、小島俊一、	昭和20年度 児玉幹生、真田正紀、	昭和19年度 羽田野寿郎、橋本ともえ、	昭和18年度 堀 正孝、荒巻妙子、	昭和17年度 和田トモ子、工藤健二、	昭和16年度 三代治次、和田和子、	昭和15年度 山本英次、	昭和14年度 石丸章代、西 純二、	昭和13年度 吉水小夜子、田口由美子、	昭和12年度 工藤三男、倉本正博、	昭和11年度 後藤謙次、都 俊生、	昭和10年度 菊地原登代子、高橋博子、	昭和9年度 小野福代、菅 裕子、	昭和8年度 岩崎常子、鈴木 薫、	昭和7年度 伊東治行、本田孝一、	昭和6年度 高山真二、本田壮一、	昭和5年度 朝倉 幸、	昭和4年度 外村文宏、富田一彦、	昭和3年度 日高慶記、保坂斉子、	昭和2年度 工藤美智子、	昭和1年度 蓮池智子、木崎俊造、	昭和0年度 平野恵子、	昭和39年度 北島知恵、戸次幸二、	昭和38年度 小出裕子、山道双葉、	昭和37年度 鈴木敬子、	昭和36年度 後藤祐治、	昭和35年度 山部光男、渡辺泰徳、	昭和34年度 右藤泰幸、山口満子、	昭和33年度 梶原英之、	昭和32年度 岡田美樹、	昭和31年度 和典典久、	昭和30年度 以上327名・1団体の皆様より維持会費の納入をいただきました。
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------	----------------------	----------------------	------------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	-----------------	----------------------	------------------------	----------------------	----------------------	------------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------	---------------------	---------------------	-----------------	---------------------	----------------	----------------------	----------------------	-----------------	-----------------	----------------------	----------------------	-----------------	-----------------	-----------------	---



人・まち・未来 風格のある都市 たけたをめざして

'00 竹田市の10(重)大ニュース発表!

- ① 城下町竹田にふさわしい温泉施設概要を発表。「竹田あし湯」がオープン
 - ② 介護保険制度がスタート・竹田市の月額基準額は3,333円
 - ③ 「協調と改革」を市政の基本に、阿南市政2期目のスタート
 - ④ 竹田市情報公開条例がスタート
 - ⑤ 中心市街地空き店舗対策として、株式会社むらさき草がオープン
 - ⑥ 県下トップで、中山間地域等直接支払制度による集落協定認定書を九重野地区へ交付
 - ⑦ 初めて男性が「ザ・さわやかさん」に
 - ⑧ 「第4次竹田市総合計画」を策定
 - ⑨ 山手河川公園(仮称)が完成
 - ⑩ 市指定有形文化財「中川神社社殿」の社宝、約160年ぶりに公開
- ※市四役や市議会議員ほかのみなさんの投票によって、今年の10大(重大)ニュースを選びました。あなたが選ぶニュースは入っていますか?

2000 たけた この1年

- 1月** ・牧省吾くん(竹田南高3年)が第8回国際高校生選抜書展大賞受賞
・大野川上流南部地区広域農道神原橋(仮称)安全祈願祭
- 2月** ・豊肥地域災害時支援協定合同調印
- 3月** ・県文化財に竹田市から「絹本着色中川家歴代藩主画像」など4件が指定される
・日本ワープロ検定協会会長賞受賞(竹田商業3年の山中理恵さん、花苑歩さん)
- 4月** ・竹田市情報公開条例がスタート
・介護保険制度がスタート
・放課後児童クラブ開所(竹田こねこクラブ、南部こじかクラブ)
・阿南市政2期目のスタート
- 5月** ・温泉施設概要を発表、「竹田あし湯」がオープン
- 6月** ・水環境フォーラム2000で「入田の川を守る会」が水環境賞を受賞
- 7月** ・中山間地域等直接支払い制度集落協定認定書交付
・竹田商業高校ワープロ部が九州地区高等学校ワープロ競技大会技能部門で団体優勝
- 8月** ・「ザ・さわやかさん」に男性が初選出
・全国高等学校総合体育大会で竹田高校弓道部(女子)が団体4位
・2輪車安全運転全国大会に野仲裕美子さん(県交通安全協会竹田支部)が2年連続出場し12位入賞
・竹田商業高校ワープロ部が全国英文ワープロ競技大会で英文団体総合3位、文書作成の部・個人2位
・大分みどり農業協同組合と大分荻町農業協同組合の合併予備契約調印
・全国高等学校登山大会に竹田高校山岳部(男子・女子)出場
・藤井大地くん(竹田小6年)が自転車で日本縦断
- 9月** ・中川神社社宝・初代藩主中川秀成公ら3体の御神像などが約160年ぶりに公開される
- 10月** ・中心市街地空き店舗対策として「株式会社むらさき草」がオープン
・子供デイサービスセンター「ゆうゆう」開所
・星幹型デイサービスセンター(竹田中央在宅介護支援センター)が開所
・県高校中央弁論大会で後藤さやかさん(竹田高校2年)が最優秀賞
・「夢苞(ゆめつと)」が特定非営利活動促進法(NPO法)による民間非営利団体の「NPO法人」に認証される
- 11月** ・竹田市わかば農業公社が「アンテナショップ飛田川集出荷所」をJA大分みどり倉庫前に新設、また「アンテナショップ事業」でトキわさだタウンとサンリブ玉来店に出店
・大分県高等学校駅伝競走大会で竹田高校陸上部男子・女子ともに3位で九州大会に初のアベック出場
・黄牛の滝の遊歩道、駐車場竣工
・「第4次竹田市総合計画」を策定
・山手河川公園(仮称)竣工
- 12月** ・竹田玉来線新山手トンネル貫通

Now in Taketa



地域高規格道路「中九州横断道路」(竹田市・荻町)調査区間指定へ

新たに調査区間に指定されたのは「中九州横断道路」竹田市・荻町間の八キロメートル。これから竹田市・荻町の調査区間は、整備のプライオリティ(優先権)や整備手法の検討、また都市計画、環境アセスメント等の調査が進められていきます。

今回の新規調査区間指定は、「中九州横断道路」の整備促進に向け、確実な一歩前進となりました。

地域高規格道路「中九州横断道路」(竹田市・荻町)調査区間指定報告会が十二月二十日、竹田市役所市長室で行なわれました。平松県知事から新規調査区間指定の一報が入ると、待ちわびた関係者の中からは喜びの声があがりました。

会員特別寄稿

「郷土の

偉大な先輩を

偲んで」

服部 舜次(昭19年卒)



広瀬武夫 御影

広瀬中佐は、明治37年3月27日(1904年)日露戦争第二次旅順港閉塞作戦を成功させ、杉野兵曹長の行方を心配しながら、短艇で離脱する時、全身を砲弾に持ち去られ、壮絶な戦死をとげた。享年36才独身であった。

昭和22年2月迄、この歌のモデルとなっていた銅像が、神田須田町万世橋の広場(現在交通博物館のある場所)にあり、東京名所の一つに数えられていた。

この像は郷里出身の彫刻家渡辺長男、朝倉文夫兄弟の合作で、実兄渡辺長男が広瀬中佐を弟朝倉文夫が杉野兵曹長を作成した。この作品が示すように、兄を抜きにしてはのちの朝倉文夫の存在は考えられなかった。

- 広瀬中佐
- 一、とどろく砲音 とびくる弾丸
荒波洗う デッキの上に
闇をつらぬく中佐の 叫び
 - 二、「杉野はいずこ 杉野は居ずや」
船内くまなく たずぬる三度
呼べど答えず さがせど見えず
船は次第に 波間にしずみ
敵弾いよいよ あたりに繁し
 - 三、今はとボートに うつれる中佐
とびくる弾丸に たちまち失せて
旅順港外、うらみぞふかき
軍神 広瀬とその名残れど

この歌は、昭和10年私が豊岡小学校4年生の時、文部省尋常小学唱歌として習い、音楽の時間に36名の男子生徒の前で、独唱したことが思い出される。

太平洋戦争が終結して約1年6ヵ月、日本政府はこの銅像を無残にも破壊した。それを知ったアメリカ極東軍司令官マッカーサー元帥は、使者を世田谷区経堂に住まいの渡辺長男宅に使わせ「今回の広瀬中佐の銅像撤去は、GHQよりの指示ではなく、政府の独断行為です。我々にはあの像は、太平洋戦争とは無関係で、上官と部下の師弟愛を象徴する人間性豊かな像である」と思い、尊敬していたのです。」と丁重に了解を求めて帰っていったとのことである。この話は、渡辺家を継がれている、関東同窓会長老の渡辺正治氏より聞いたものである。

広瀬武夫がどうして軍神として祭られたかということは、多くの人々が理想とする人間像、模範とすべき人格や行動がそなわっていたからである。

我々の中学生時代は、広瀬武夫の誕生日が5月27日であったので、毎月27日には「軍神日」として職員生徒全員が、早朝隊伍を組んで広瀬神社に参拝することが恒例となっていた。神社境内に展示されていた中佐の伝記等は、当時の我々に強い感銘を与えたものである。中佐はスポーツ万能で、特に柔道は加納治五郎直伝道館六段の猛者であった。また彼の精神の響きを伝える書翰集詩文は、明治時代における文化遺産としていつまでも後世に伝えなければならぬ。

なお、広瀬中佐は、軍神として敬われていますが、文人としての評価も非常に高く、比較文学専攻の島田謙二東京大学名誉教授や司馬遼太郎の著書にもそのことが詳述されている。また、中佐は短い生涯にも関わらず、大変な蔵書家で死後、膨大な蔵書を兄の広瀬勝比己海軍将官が、南葵文庫と東京外国語大学に寄贈した。南葵文庫の蔵書は、その後東京大学図書館に移管された。



(註)

太平洋戦争が終結するまで、冒頭の歌をモデルにした銅像が、神田須田町の万世橋のたもと広場にあり東京名所の一つに数えられていました。太平洋戦争の終戦の際、東京都はこの銅像を無残にも破壊しました。

郷土の偉大な先輩が残した質実剛健、人間性の豊かさ、文武両道の精神は20世紀の長い年月にわたり竹田中学、高校の職員生徒により引き継がれてきた。21世紀は竹高健児の更なる飛躍を期待するものである。



(注記)

いささか時代感覚を錯誤してはいないかと?……ご異論の方もお在りかとは存じましたが、昨今、連日発生の世情の混乱事に観られる「師弟愛・親子愛・兄弟愛の欠如等々……日本人の美徳でもある「奉仕の精神」の薄れ行く現状を見ると、敢えて原稿を原文のまま掲載させて頂きました。また併せて韓国高麗大学の教育理念の一端もご参考迄に併記させて頂きました。(朝日新聞記事)

犠牲精神は母校の名誉 故李さんに卒業証

韓国・高麗大

【ソウル24日】箱田哲也「息子さんは立派に本校を卒業されました」——JR新大久保駅(東京都新宿区)でホームから転落した男性を助けようとして亡くなった韓国人留学生、李秀賢さん(24)の母校、韓国高麗大学で二十四日、卒業式が開かれ、大学側は秀賢さんの両親に名誉卒業証を授与する。

「優秀な成績と誠実な品行で他の人々の模範となつた。日本留学中、「殺身成仁」の犠牲精神を発揮し母校の名誉を高めた。ここに名誉卒業証書を授与する」

燃える!!

クラス会・同期会

竹高25会

卒業50周年記念大会開催

佐藤 邦生(昭25年卒)

昭和25年男子校として最後の卒業生となった我ら「竹高25会」、激動の20世紀を70年近く生きてきた「ともがき」が、2千年節目の年の平成12年が卒業50周年目にあたることから、11月4日、5日の両日、久住高原荘に往事の健児50名が集い、来賓として、軍事教練担任「軍曹」こと佐久間太山先生、化学担任「ボン」こと田北和義両先生が出席され記念大会を開催した。



竹高25会 50周年記念大会 2000年11月4日 於 久住高原荘

会が進むほどに、ここかしこに輪ができ、戦時中の雪中行軍、学徒動員での飛行場づくり、農家への勤労奉仕などなど往時の懐古談に時間の経過を忘れ深夜近くまで祝宴が続いた。宴の最後は全員起立、腕を組み「竹中校歌」(註、卒業まで校歌は旧制中学の歌詞のまま)「荒城の月」を斉唱、年はとつても竹中健児の意気益々高く、気概あふるる歌声よ久住の山々にこだましろ、とばかり高唱し、25会いまだ健在なりを誇示した意義ある記念大会であった。来年は三重町で開催することを決定。翌5日散会した。

二六会(東京)

二千年 二六会全国大会

飯倉 成憲(昭26年卒)

十一月七日(火)出迎え班五人が竹高二六会の旗を掲げ、羽田空港到着ロビーで諸兄弟を迎える。貸し切りバスで横浜へ向かう。責任者が歓迎の挨拶、酒に酔った人は皇居内に入れません…。バスは横浜ベイブリッジ、山下公園を通過、ガイド嬢の名調子に聴き入る人半数、残りは旧友との果てしない談笑だ。十一時半横浜重慶飯店到着。あれれビールが出たゾ。昼食後中華街を

散策、バスはみなと未来、レインボーブリッジ、東京タワー、国会議事堂を経て皇居乾門に着、巨大な観音扉が荘厳な響きと共に開き、一行四十三名を迎え入れた。皇居内は木漏れ陽を受け、静寂にして時折舞う落ち葉や小鳥のさえずりに酔っていた。とその時、白馬に騎乗した



竹高二六会 2000年東京大会 2000年11月7日 於 Four Seasons Hotel

凛々しい衛士らが整然と迫り、目礼して去った。お伽の国の一瞬の出来事に思えた。宮殿や富士見櫓、同心番所跡、そして東御苑内は松の廊下跡などを廻り、紋章入りの土産品を求めて皇居見学を終え、フォーシーズンズホテル椿山荘に向かう。夕刻、会場に集まった総勢八十七

名が記念撮影の後、宴会に移る。終了後もホテルのロビーでの談笑が深更に及んだ。翌八日(水)は木更津のカメリアヒルズカントリークラブで二十名がゴルフを楽しみ、一年後の再会を約して別れた。



有志往年の技を競う(於 カメリアヒルズCC)

竹高二八会

平成十二年度 全国大会

麻生 巖(昭28年卒)

「有馬兵衛の向陽閣」に集いました。六十数年の年輪を刻み、なお一層元気な百三十人余の面々が勢揃いしました。

我々二八会はさる十一月九日「二十年の集い」と題して日本最古の温泉地と言われる有馬温泉で全国大会を行いました。

関西地区での二八会は初めてです。それと言いますのも京阪

地区の在住者が少なく実現できませんでした。その少ない友たちのお骨折りで待望のこの地で素晴らしく楽しい会をもつことができました。

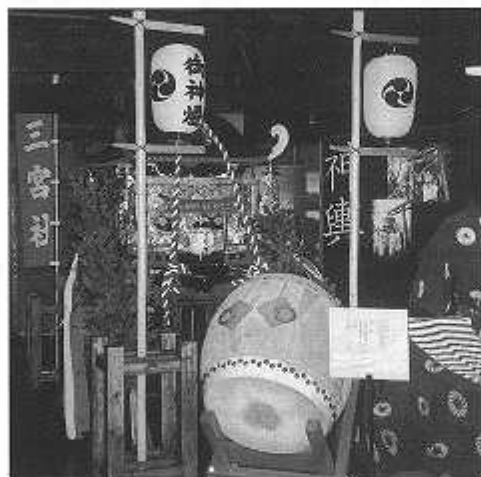
同期の会は嬉しいものです。幾つになっても元気な友に会え心が弾みます。方言とも再会できました。校歌も高らかに歌いました。皆さんもきっとそうだと思います。本当に生きてくるとの素晴らしさを感じさせてくれる行事です。明るく日は若き日に憧れた宝塚鑑賞組、神戸市内・明石海峡大橋見物組やら仲間と京都に行くやら、これもまた楽しからずや。

そして、また会う日を胸に、笑顔笑顔で手をふりあいました。



竹田高校二八会 2000年の集い 2000.11.9 於 有馬温泉 兵衛 向陽閣

ふるさと名所紀行 ～俣楽の郷伝承館(緒方町)～



佐藤 毅士 (昭28年卒)

日本晴伝承ホール (旧酒蔵)

俣楽の郷伝承館 (大分県緒方町馬場)

大野郡緒方町は、古代には宇佐神宮の荘園として栄え、江戸時代になってからは、岡藩、中川侯が、地域の治山治水の開発に努め、緒方井路が完成してからは、岡藩七万石の中の緒方五千石と云われ、藩の中心的穀倉地帯としてその役割を果たしていた。

俣楽とは岡藩領下で「神楽」を指す言葉として用いられてきた。緒方町には、神楽をはじめ獅子舞や白熊などの郷土芸能が数多く残っている。

「俣楽の郷伝承館」は、緒方の銘酒「日本晴」の酒蔵であった建物を、再生活用したもので、暮しの中で伝えられて来た郷土の文化にゆっくり触れ、じっくり体験出来るようになってい

ます。一階には、大太鼓、鼓、などの打楽器をはじめ、獅子舞、白熊などの頭を手にとつて鑑賞出来るように陳列されている。又、「日本晴伝承ホール」は多目的ホールとして、郷土芸能の上演のほか、コンサート、小演劇の演出など幅広い利用が可能である。

二階フロアでは、祈りと祭をテーマに、地元八幡の三宮社の川越御輿や、緒方神楽の模型がわかりやすく紹介されている。又、敷地内には、ふるさと工芸体験館もあり、陶芸、竹細工、ワラ細工、など暮しの知恵から生れたものを作り、郷土工芸について理解を深めることが出来る。平成十一年に創設されたこの館は未だ二年たらずですが、近頃では九州全域や県内からの観光バスの見学スポットにも組みこまれ、徐々に一般の人々に利用されるようになってい

○入館料 大人 三百円

小中高生 百五十円

○会館時間 十時～十七時

○休館日 毎週火曜日、年末・年始

平成十二年度竹田会 総会・懇親会開催

平成十二年十一月十七日(金)

於 中野サンプラザ
田部 修士(昭42年卒)

関東竹田会の総会・懇親会が中野サンプラザ・銀河の間にて開催された。

来賓に、阿南一成参議、財津県事務所長、渡部次長、阿南竹田市市長、高橋助役、古井議長、姫野竹田商工会議所会頭、菅親光協会長、後藤商店連合会副理事長、板井商店連合会副理事長、佐野大分県人社社長を迎え総勢116名の盛大な会となった。司会は昨年に続いて志生野温夫アナウンサーが担当、初めに物故者への黙祷を捧げ開会となった。



里見会長の挨拶

冒頭里見会長より、「20世紀も残すところわずかとなりましたが、昭和26年に創設以来区切りの50年でまさに記念すべき、今世紀最初の関東竹田会」と前置き、「高齢者人口が増大、過疎化する中で、営々として21世紀へ向けての町づくりを模索されている関係者の努力が実ることを期待しています」と挨拶された。



大盛会の総会・懇親会場風景 [阿南市長他郷土からのご来賓]

阿南参議による故郷への支援の決議表明に続いて、阿南市長が「竹田市への声援、誠にありがたい。年長者の方が多いと言ふことは裏返せばそれだけ住みよい町ということではないでしょうか? 温泉館建設事業を始め、山手河川公園のホタル幼虫飼育等々格調高い町づくりへの気運が出てきている。皆さんからの激励を励みに頑張ります」と挨拶された。

姫野商工会議所会頭が、地元産業の現況報告と併せて地元からの来賓を紹介した。続いて古井議長のご発声により乾杯、懇親の宴に入った。恒例の福引き抽選会では、今年も子どもの背丈程もある長い自然薯に人気が集。地元へ負けず高齢化が進む竹田会も、出席者は全員一時年齢を忘れて懇談、肩を寄せ合い声を張り上げての「美しき竹田」「荒城の月」の合唱で閉会となった。

会員の皆様へ

総会と懇親会のご案内

乞ひご期待!

第十五回 関東同窓会

日時

平成十三年七月十四日(土) 受付 AM十一時半開始

場所

新宿小田急センチュリーハイアット(桃山の間)

●総会 ●懇親会 企画

当番幹事

第十二期(昭35年卒)

第二十二期(昭45年卒)

一、総会

・会務会計報告・監査報告

・役員改選

・新年度の方針他

二、懇親会

当番幹事さんの企画による催物の数々並びに会場の設営は学年別に椅子席を準備。先輩後輩の交流にご期待下さい。

企画委員長

匂坂 慎輔

時空間を超えて新世紀に新たな発見!

学年幹事 川口 弘展 (昭45年卒)

今 竹田高校は?

壮大な城址、岡城に懐かれるように聳える我母校竹高で学んだあの頃から時は流れました。今年の関東同窓会は表題のように語らいの時を又語る場所を提供することをモットーに企画を進めております。

実は私、今年の幹事をお引き受けいたしました。数年前まではこの同窓会の存在すら知らない状態でありました。ある時先輩に誘われて参加するようになったのですが、違和感なく受け入れて頂いたと感じています。それまでは方言で言う「ヨダキイ」の一言で片づけていた気がしますが、他にもいろいろな会に出てますが、暖かみのある良い会と実感している次第です。

時に多感な青春のひとつときを共に過ごした友をチョット誘って出かけてみませんか。では本年の企画を紹介いたします。まず会場は新宿のセンチュリーハイアットホテル、食事は旨い洋中華の食べ放題飲み放題です。地酒もご用意しています。話に夢中になると足りないかもしれません。語らいのBGMは「小林ひでおとハッピートラッド」と共にジャズを楽しみたいと思います。懐かしのデキシーから荒城の月ジャズアレンジ版までいろいろな音を楽しめると期待しています。

掲 示 板 関東同窓会の皆さんへ!!

母校校長の移動 (13年4月1日付)
「今後共よろしくお願ひ申し上げます」
※前校長……永松 康士 先生(高田市出身)→高田高校長
※新校長……安部 義和 先生→竹田高校長
◎大分南高校教頭(赴任前)

竹高通信29号
※全校朝礼 2/1 (3年は総仕上げ・2年は家庭学習の確立を、本番まで後1年・1年は各自自覚して学校の中核に)の話の後、韓国の李さんを題材に「勇気と感動」について話す。
※職員会議 2/5 (全員卒業認定)、自己評価システム反省会議、入学者選抜業務の件
※高P連指定研究大会 2/5 田辺会長、冒頭挨拶で(東京都Pの聞く態度の悪さを話す)
※大学入試 2月25日国公立一次(出願97名)、二次(150名)、私大(118名)
※長吉 泉 氏(竹高卒・緒方町出身・竹高関東同窓会会長)東京六大学への大分県、初の理事長(明治大学)就任おめでとう御座います。竹田高校関係者一同ご祝詞申し上げます。
※2年3組板井美和さん、京都橋大学主催「個性が輝くひと・まち・文化」コンテストで優秀賞に輝く。
※明日は、第53回卒業証書授与式(159名)です。数々のご支援に御礼申し上げます。
いざゆかん 春を感じる 試験あり「竹田高校:校長・永松康士」

未来の素材に、
Superface
日本パーカライジング株式会社
〒103-0027 東京都中央区日本橋1-15-1 TEL. (03)3278-4357

訃報
慎んでお知らせ申し上げます、心からご冥福をお祈り致します。
物故者御芳名
福田 昭光様(昭33年卒)
平成12年10月30日 没

あ と が き

広報委員会として当分の間「ホーム・ページ」の内容と対応の充実を計り度く、会報の発行を年一回にさせて戴きます。

※「投稿」をお待ちしています。

- 若い世代の皆様「クラス会情報」や「特別寄稿」等々ご投稿を特に期待しお待ちしております。
- ・投稿内容
- ①クラス会情報
 - ②故郷の便り
 - ③海外便り
 - ④会員の語らい
 - ⑤詩歌・文芸
 - ⑥会員の催し
 - ⑦会員消息
 - ⑧その他
- ・連絡先
〒279-0022
千葉県浦安市今川2-10-31
神田 清 宛(広報委員長)
☎047-354-9456